

# WPI Exhibit Report: 2012 AAAS Annual Meeting

16–20 February 2012 • Vancouver, Canada

Prepared 2 March 2012 by  
Yutaka Iijima, Kyoto University iCeMS

Solid science crossing borders and disciplines.



WPIブース：武田浩太郎さん（左奥：NIMS MANA）と池田進さん（右：東北大学AIMR） | 会場となったバンクーバー国際会議場内

**文**部科学省と世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）全6拠点※は、2月16日から5日間にわたってカナダ・バンクーバーで開催されたアメリカ科学振興協会（AAAS）年次大会に合同でブースを出展しました。この展示は、京都大学iCeMSが幹事、大阪大学IFReCが副幹事機関となって企画・実施されたものです。

**展**示期間は17日からの3日間で、約2,700人がWPIブースを含む日本パビリオン（科学技術振興機構＝JST主催）を訪れました。大会全体では、例年を大きく上回る11,000人以上が来場しました。うち約6,000人が家族向けイベント「ファミリー・サイエンス・デー」参加者、約700人がメディア・広報関係者でした。

**W**PIブースでは、プログラムと各拠点を紹介するビデオやポスターの他、被引用数において世界の上位1%に入る論文をWPIがど

れだけ生み出しているかを示すポスターが掲示されました。文部科学省と各拠点の担当者がWPI トートバッグやWPIカードを配りながら説明し、教育・研究機関の教職員、学生、政府関係者、家族連れなど多様な層の来場者と対話しました。

「日本の大学について知りたい」と聞きに来る理系志望の高校生や、「日本で研究する場合、日本語はどの程度必要か」と相談に来る大学院生など、日本の科学・技術に期待や関心を持ってブースを訪れる人の姿も多く見られました。WPIは英語が公用語である事について、「研究をする上では不自由せずに済みそう。日常生活がどうなるか興味深い」といった声も聞かれました。

**個**別取材に応じたジンジャー・ピンホルスターAAASパブリック・プログラム・ディレクターは、日本からの参加について「非常



に歓迎している。約60か国からの参加があるこの国際会議で、今年は日本の存在感も大きかった。来年以降も、日本の積極的な参加を期待している。(AAASの発行する)サイエンス誌に載る年間約900の論文の大半は国際共著で、うち約45%の筆頭著者はアメリカ国外の研究者。世界の様々な課題に立ち向かうには、世界の頭脳を結集し、協調する事が欠かせない」としています。

今年の大会テーマは「平らな世界へ：国際知識社会の形成」でした。このテーマについて、ニーナ・フェドロフAAAS会長は「知識は、その成長や生み出す価値に制限がないという点において、掛け替えのないもの。地域ごとの利益を越えて、国際知識社会を作ることがますます重要になっている」としています (*Science* **335**, 2012)。

①バンクーバー国際会議場前 ②WPIブース設営時の様子 ③日本パビリオンWPIブース ④WPIブース内に置かれた冊子類 ⑤WPIカード ⑥文部科学省と各WPI拠点のブース担当者ら：左から、飯島由多加(京大iCeMS)、松浦雅子さん(九大I<sup>2</sup>CNER)、坂野上淳さん(阪大IFReC)、藍谷早苗さん(九大I<sup>2</sup>CNER)とWPIバッグ、大林由尚さん(東大IPMU)、上田光幸さん(文部科学省)、池田さん、武田さん、阿部和雄さん(東大IPMU)

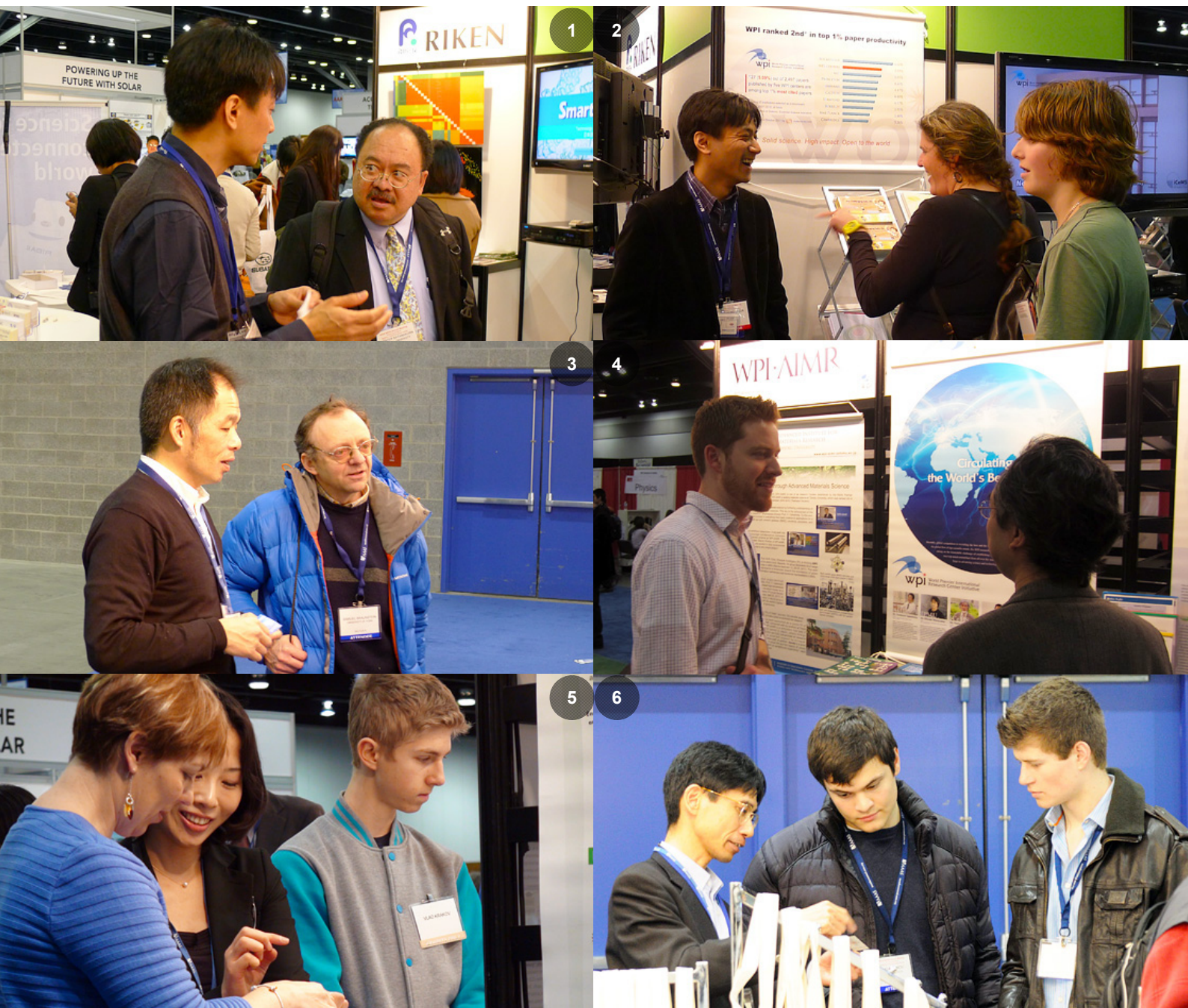




ブース展示の他、170以上のシンポジウムやワークショップ等が随時併行して開催されました。生命科学・物理学・工学・社会科学といった分野の研究者に加え、政策担当者・ジャーナリスト・学芸員など約700人が登壇し、それぞれの研究・活動内容を「最先端の科学・技術」「協働」「コミュニケーション」「教育」「政策」「エネルギー」「食糧」「健康」といったカテゴリの中でのトピックとして論じました。

例えば「協働」カテゴリの『学際連携の成功例：理論と実践』シンポジウムでは、3時間の枠でハーバード大教授など6名が登壇し、「成功する学際プロジェクトもある一方で、研究チーム内の不和や低い生産性などが問題となり、頓挫するケースがある」といった課題などについて発表しました。参加者からは「シニアな研究者が採用を決めるので、学際性よりその研究者の専門分野への貢献をアピールした方が、若手としては得だと感じてしまわないか」などの問題提

WPIブースで来場者と対話する上田さん (①②左)、岩崎琢哉さん (阪大:③左)、大林さん (④)、藍谷さん (⑤中央)、池田さん (⑥左)





起があり、会場全体を巻き込む議論が展開しました。

**初**日の夜は開会セレモニーとフェドロフ AAAS会長による特別講演が、2日目から5日目までの夜はプレナリー（他のイベントは同時に行われず、来場者全員が参加する想定）の講演が行われ、全て無料で一般公開されました。

**3**日目のプレナリーでは、**フランク・セスノ** ジョージ・ワシントン大学メディア広報学部長（元CNNワシントン支局長）を座長とするパネル・ディスカッション『科学だけでは不十分』が開かれ、1,400人を超える聴衆が集まりました。全ての客席にキーパッドが配備され、質問ごとの意識調査がその場でできる仕組みになっていました。

WPIブースで来場者と対話する葉草歩（京大iCeMS：①左②右） ③JSTが主催した日本パビリオン出展機関（海洋研究開発機構＝JAMSTEC、日本学術振興会＝JSPS、理化学研究所、筑波大学、WPI）による全体ミーティング ④現地メディアCBC Newsの取材を受ける理研ブース ⑤展示ホール：各国の政府機関、大学、学会、企業などがブースを出展 ⑥約6,000人の親子連れが参加した体験型イベント「ファミリー・サイエンス・デー」





「気候変動の研究をする中で、政治や経済に影響し得るデータを発表する時の外圧」「専門用語を避け分かり易くしようとするあまり、問題を過度に単純化する危険性」「ソーシャルメディア（フェイスブックやツイッター等）との付き合い方」「研究内容の効果的な伝え方」等について、パネリストの**ジェームズ・ハンセン**NASAゴダード宇宙科学研究所長、インペリ

アル・カレッジ・ロンドン研究員で科学ジャーナリストとしても活動する**オリビア・ジャドソン**博士、カロリンスカ大学の**ハンズ・ロスリング**教授が、実話や経験談を交えながら議論しました。

**第** 1回AAAS年次大会は、1848年に米ペンシルベニア州フィラデルフィアで行われました。これまでに**ラリー・ペイジ**米Google最

①シンポジウム『国立研究機関の科学者に言論の自由を：対話再開への道』では、カナダ首相に宛てた同日付けの公開状を配布 ②東日本大震災に関する世界の報道についてのシンポジウムでは、産官学の研究者とジャーナリストが登壇 ③ワークショップ『科学の共有：自分と仕事の魅せ方』では、90秒でいかに上手く伝えるかを学び、実際に練習 ④ポスターセッション：「高校生」「大学生・大学院生」「研究員・教員」の3部構成で、1日1部ずつ開催 ⑤⑥1,400人以上を集めた3日目のプレナリー：ロスリング教授が世界の人口推移についてトイレトペーパーを使って解説する様子





高経営責任者（2007年）、**フランシス・コリン**米  
 国立衛生研究所長（2001年）、**ビル・クリントン**  
 元米大統領（1998年）、**ビル・ゲイツ**米マイクロ  
 ソフト会長（1997年）など、産官学の著名な人物  
 を講演者として招き、今年で178回目の開催とな  
 りました。次回は2013年2月14日から5日間、米  
 マサチューセッツ州ボストンで開催されます。

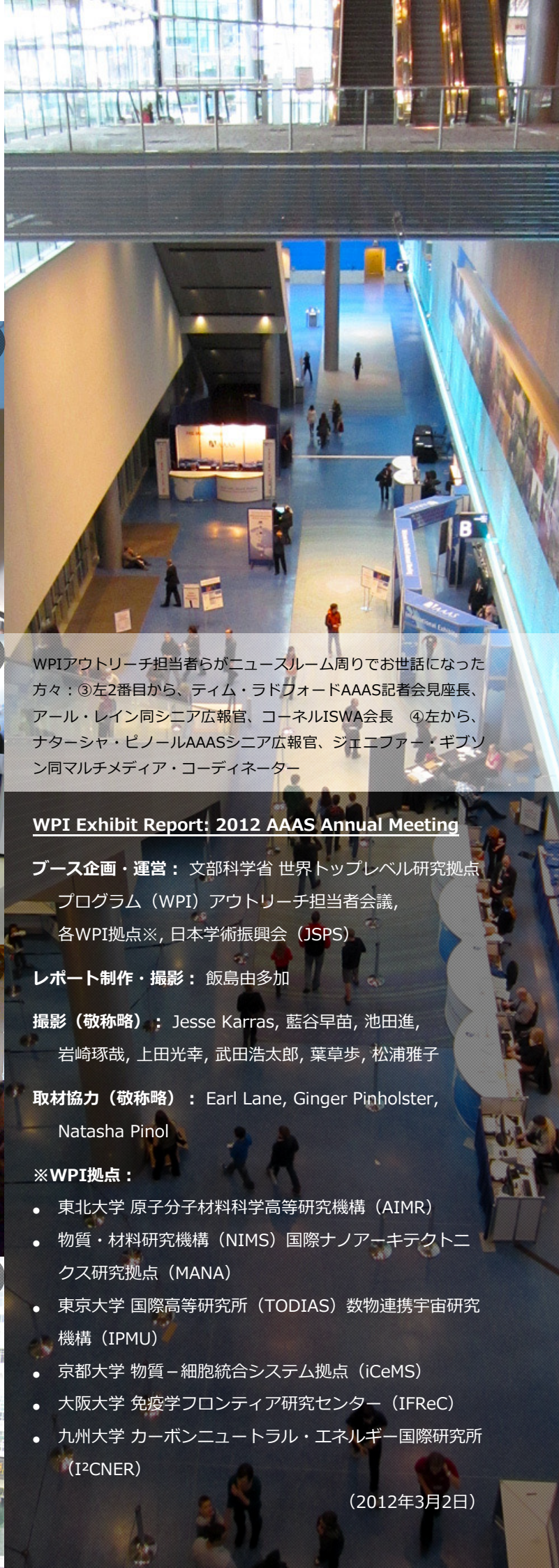


AAASは、メディアと広報担当を「報道関係者」として扱い、多くの取材・交流の場を用意する。ブリティッシュ・コロンビア大学  
 ツアーでは、北米で「最も環境にやさしい」とされる建物（①）を見学。朝食会では、AAASパブリック・プログラム・ディレク  
 ター（②左）司会のもと、同会長（②右）、同CEO（③檀上右）と質疑応答。WPIアウトリーチ担当者ら（④）も参加し、世界の報  
 道関係者と交流。朝食後も、ジェームズ・コーネル国際科学ライター協会（ISWA）会長（⑤左手前）による講評や、登壇者らへの  
 個別取材（⑤奥）が続いた。報道関係者用レセプションはバンクーバー水族館で開催（⑥）。⑦コーネル会長による早朝AAAS講評





①バンクーバー科学博物館「サイエンス・ワールド」で開催されたAAASカブリ科学ジャーナリズム賞の授賞式 ②講演者として大会に参加した早稲田大学准教授の難波美帆さん（左から2番目）と、科学ライター・AAASフェローのリン・フリードマンさん（左から4番目）



WPIアウトリーチ担当者がニュースルーム周りでお世話になった方々：③左2番目から、ティム・ラドフォードAAAS記者会見座長、アール・レイン同シニア広報官、コーネルISWA会長 ④左から、ナターシャ・ピノールAAASシニア広報官、ジェニファー・ギブソン同マルチメディア・コーディネーター

### WPI Exhibit Report: 2012 AAAS Annual Meeting

ブース企画・運営：文部科学省 世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）アウトリーチ担当者会議、各WPI拠点※、日本学術振興会（JSPS）

レポート制作・撮影：飯島由多加

撮影（敬称略）：Jesse Karras, 藍谷早苗, 池田進, 岩崎琢哉, 上田光幸, 武田浩太郎, 葉草歩, 松浦雅子

取材協力（敬称略）：Earl Lane, Ginger Pinholster, Natasha Pinol

※WPI拠点：

- 東北大学 原子分子材料科学高等研究機構（AIMR）
- 物質・材料研究機構（NIMS）国際ナノアーキテクトニクス研究拠点（MANA）
- 東京大学 国際高等研究所（TODIAS）数物連携宇宙研究機構（IPMU）
- 京都大学 物質-細胞統合システム拠点（iCeMS）
- 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター（IFReC）
- 九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所（I<sup>2</sup>CNER）

（2012年3月2日）